

(第6期) 第7回さいたま市公民館運営審議会 議事録

1 開催日時

平成24年11月27日(火) 午後1時30分から午後3時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 9階学習室2

3 出席者名

〈委員：10名〉

- ① 楠谷 忠洋 委員長
- ② 安藤 聡彦 副委員長
- ③ 五十嵐 健一 委員
- ④ 岩井 正三 委員
- ⑤ 柿塚 一二三 委員
- ⑥ 加藤 久美子 委員
- ⑦ 鶴見 清一 委員
- ⑧ 船木 正子 委員
- ⑨ 青木 光美 委員
- ⑩ 長岡 綾子 委員

〈事務局：5名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 中川 晴美
- ② 副館長 細見 俊孝
- ③ 主幹 小川 栄一
- ④ 主幹兼事業・企画係長 森田 隆之
- ⑤ 事業・企画係主査 斉藤 明彦

4 開 会

出席状況の確認、第6回審議会議事録の承認を経て議事に入った。

5 議 題

(1) 諮問について

6 配布資料

- (1) 諮問文(資料1)
- (2) 諮問から答申までの審議の流れ(資料2)

- (3) さいたま市生涯学習市民意識調査／単純集計（資料3）
- (4) 公民館における現状と課題（資料4）
- (5) 平成21～23年度事業実績一覧（資料5）

7 公開・非公開の別
公開

8 傍聴者の数
0名

9 会議
・会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10 審議内容

(1) 議題1 諮問について

①諮問について、事務局より資料1に基づき説明した。

楠谷委員長	ただ今、中川館長から諮問が出されました。また、諮問理由などについても説明していただきました。諮問には口頭による諮問と文書による諮問とがありますが、今回は文書による諮問ということです。共同の責任をもって審議の内容に応えたいと存じます。 ご質問等がありますでしょうか。
加藤委員	答申はいつまでに出すのでしょうか。
楠谷委員長	この後に説明があるものと思われまます。

②諮問から答申までの流れについて、事務局より資料2に基づき説明した。

加藤委員	テーマごとに審議①②③とあるが、これは、諮問にある検討の観点の(1)(2)(3)のことですか。
森田主幹	はい、そうです。
楠谷委員長	地域課題に取り組む公民館の事業がどうあるべきかを審議していただくに当たり、意見を頂戴することがあると思いますが、どうぞよろしく申し上げます。 公民館運営審議会委員は住民と公民館とのかけ橋、公民館運営の参謀、公民館の羅針盤などと言われます。文書による諮問につきましては、平成15年に、「平成16年度の公民館事業について」の諮問があり、今回の諮問は約10年ぶりです。法に示すように審議会は館長の諮問に応じて答申をする諮問機関です。 審議会の委員は非常勤公務員の性格をもっており、公民館の問題や課題を館長が自覚して、審議会に対して諮問をするものです。委員の皆さんのご協力をお願いいたします。

③生涯学習市民意識調査結果について、事務局より資料3に基づき説明した。

楠谷委員長	ただ今、市民意識調査の結果について、説明いただきました。ご質問等がありますでしょうか。
岩井委員	調査の対象は、公民館の利用者などですか。回答は郵送ですか。
森田主幹	市民を無作為抽出、回答は郵送です。
楠谷委員長	課題が多く含まれているのが、調査結果から読み取れます。
岩井委員	現実的な結果になっているようです。回答を見ると公民館の実情を知らない方もたくさん含まれているようですね。
鶴見委員	いつ調査は行ったのですか。
森田主幹	9月に行っています。前回行ったのが平成14年です。
中川館長	現在の生涯学習推進計画が平成25年度で終了し、平成26年度から新しい計画となります。その計画を策定するため、生涯学習振興課で実施した調査です。
船木委員	問15で、学校と家庭及び地域住民の連携を推進するために注力すべき点について質問していますが、選択肢から選ぶだけでなく、自由記入欄があってもよいのではないのでしょうか。
加藤委員	社会教育委員会議で調査項目を協議しました。公民館運営審議会でも調査項目について論議するのは難しいと思います。しかし出た意見を社会教育委員会議に伝えることはできます。

④公民館における現状と課題について、事務局より資料4に基づき説明した。

楠谷委員長	視察をしたときの課題なども含め、公民館における現状と課題をまとめていただきました。この他に問題がありますでしょうか。
加藤委員	<p>防災、子育て、超高齢化などの課題を解決するためには、市民との協働だけでなく、行政内の連携、縦割りではなく横につながるという視点も必要だと思います。</p> <p>女性の就労率は優に50%を超え、働く女性の支援も必要です。地域の課題解決のために公民館へ来てもらうには、「働いている人と公民館をつなぐにはどうしたらよいか」考えていかねばなりません。</p> <p>地域コーディネーターは、学校と地域・家庭との連携を図るのが役目ですが、つなげるための役割が今一果たせていないようです。</p> <p>社会教育委員会議で新しい施設を見学しました。施設のもつ機能は大きいです。私がかつて利用していました公民館施設は古かったのですが、新しい施設は、太陽光発電、音楽ホールや陶芸窯などがあります。地域性はありますが、10区で公民館が同じような形で機能しているか検証が必要です。</p>
細見副館長	先日、社会教育委員会議に初めて出席させていただきました。意見が

	<p>公民館についてのものになると事務局が答えられないということがありました。これからは、生涯学習総合センター職員が必ず出席させてもらい、問題の共有化を図っていきたいと思います。</p> <p>市民意識調査につきましては、10年前の質問項目とほぼ同じです。答申にそぐわない項目もあります。次回は調査にも参画できればと思います。職員同士問題点を共有する必要があります。</p>
安藤委員	<p>横の連携がないように思います。小さいまちですと社会教育関係の審議会や協議会などで一斉に集まる時があります。他の会議に出席するというのは非常に重要なことです。</p> <p>公民館運営審議会のあり方、活性化も盛り込んでもよいのではないのでしょうか。公民館をうまく運営していくには、という大きなテーマもいかがでしょうか。</p>
岩井委員	<p>利用者のマナーとありますが、この他に例えば若い人に来てもらえるように、施設の見直しも必要ではないでしょうか。</p>
鶴見委員	<p>学習成果の還元につきまして、一概にこのように言い切ってよいのでしょうか。講座にはさまざまな目的があります。本人が心豊かになることが大切です。必ずしも地域に還元しなくても本人が心豊かになればよい、基本は個人でよいのではと思います。</p> <p>自分も講座を持っていますが、上手に歌うよりも楽しむことを優先することもあります。必ずしも講師やボランティアにならなくてもよいのではないのでしょうか。</p>
船木委員	<p>まずは個人で満足、楽しむことが大切です。還元したい人がすればよいと思います。その還元する方法を見出すのが大変です。地域との連携は本当に大変です。</p>
安藤委員	<p>答申はきれいな言葉を並べるだけでなく、使える答申でないといけないと思います。</p>
加藤委員	<p>個人が豊かになるというのがベースだと思います。例えば、夫の転勤で転居した場合、友達のいない妻はどこへ行くかという、まず公民館へ行きます。公民館の可能性はたくさんありますが、それをいかに見出すかです。現場で使える答申が必要だと思います。</p>
細見副館長	<p>今回の諮問につきましてご説明させていただきます。個人が自分を高めるためでしたら、市民意識調査や講座アンケートの結果をもとに事業を企画すればよいため、私たちの努力である程度は向上できます。社会教育委員会では生涯学習の中で「つなぐ」ということが大切とされています。また、中教審でも「つどう」ということが取り上げられています。住民がどうやってコミュニティづくりをしていくか、いかに公民館を地域で使いやすいものにしていくか、などについてのことです。</p> <p>個人を高めるだけでなく、住民の連携やコミュニティというところ</p>

	まで高めていただくということにつきまして、委員の皆さんの立場、経験から意見を出し合いご協議いただき、答申していただきたいという意味があったということをお願いさせていただきます。
鶴見委員	皆が講師、ボランティアにということではないですよ、ということです。
楠谷委員長	公民館の料理教室で、おすしの作り方を学び作ったおすしを持ち帰って、隣の方に試食していただき、作り方も教えてあげる、このような対個人の場合も学習成果の還元に含まれると思います。学ぶことの波紋を地域に広げる姿勢が必要です。

⑤平成21～23年度事業実績について、事務局より資料5に基づき説明した。

楠谷委員長	「公民館は事業で勝負しなければならない」しかし、事業の実績について、こういう生涯学習事業をやってどれだけ人を集めることができたというのは分かりますが、こういう点は良かったが、こういう点は念頭に置くべきだったというような、事業内容の評価についてまとめられたものをいただけないでしょうか。 現状と課題はご説明いただきましたが、後は事業の評価もあればと思います。
安藤委員	現状と課題プラス事業の評価が必要ということですね。
青木委員	人材活用、ボランティアの養成は、成果の還元の一つですが、専門分野の勉強だけでなく、ボランティアとしてどう活動したらよいかについても講座の内容に取り入れていただきたいと思います。かつて講座に参加しましたが、講座が終了しても具体的にどう活動したらよいか分かりませんでした。
五十嵐委員	公民館を利用してもらうように啓蒙活動はしていると思いますが、自治会への公民館のチラシが時期によって来たり、来なかったりします。地域の要は自治会です。直接的な自治会への働きかけも必要ではないでしょうか。お知らせだけでなくもっと効果的な方法もあるのではないのでしょうか。
細見副館長	旧4市では自治会との関係にバラつきがあります。岩槻を除くと、各公民館に自治会長のほか、学校長、PTA会長など地域の方も含めた公民館運営協議会という組織があります。また、公民館だよりの配布の仕方も地域によってさまざまです。 図書館に友の会というものがあり、会員には本の修理をしていただいています。公民館にも友の会をつくり、市民との協働を進めていきたいと思います。まずは地域で意見交換をしていただき、これならうちでもできそうだということを実施していただきます。この件につきましては、後日、皆さんにご案内させていただきます。
五十嵐委員	自治会もいろいろと協力を依頼され忙しい状況です。全てとはいき

	<p>ませんので、特色あるものはぜひお声かけいただければと思います。公民館に近い人、遠い人でまた違ってくるのではないのでしょうか。介護予防事業などでは、遠い人はわざわざ公民館まで行って、体操などしなくてもよいと言う人もいます。</p>
安藤委員	<p>職員の役割も大きなものだと思います。以前職員と話をしたときに、市民が自分よりもいろいろ知っているので、大変だと言っていました。職員がどんな考え、気持ちでやっているか、現場の人が何を望んでいるかも大切です。可能でしたら職員アンケートなどはできますでしょうか。</p>
細見副館長	<p>モチベーションアップなどの内容でも研修を実施していますが、研修の際にアンケートを行っています。その機会を捉えて設問に加えるなどして対応したいと思います。</p>
長岡委員	<p>若い世代対象の事業の実施、公民館を魅力あるものにして若い人を呼べればと思います。子育て広場のようなものは人気があります。子育てが終わったころ、またこの人たちの足を公民館に向けさせたいです。若い人に公民館に来てもらうようにするには、ということを皆で考えていきたいと思います。</p>
加藤委員	<p>プロのトランペッターが全く楽器をやらない人を対象に10回の講座で吹けるようにするというものがありました。今では、受講者が100人を超え、せせらぎコンサートや市民会館で演奏するなど、地域で活動しています。男女共同参画の所管で、弁当男子集まれという講座も保育をつけて好評でした。</p> <p>講座の内容が、皆求めていたもの、地域住民のニーズと重なった場合、参加が広がり地域の活性化やグループ活動の発展につながっていくのだと思います。</p>
岩井委員	<p>そういう事例を集められるとよいですね。</p>
青木委員	<p>世代を絞るのもよいですが、幅広い年齢の人が出会う場としてのよさを公民館はもっています。地域づくりのためにこれは大きなものだと思います。</p>

(2) その他

- ・ 次回は、1月22日（火）13時30分から生涯学習総合センターにおいて開催することを確認した。

11 閉会